

令和8年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年3月26日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○4月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（温州みかん）	① そうか病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	① ハダニ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
ニガウリ（施設）	① うどんこ病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② 斑点病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	⑤ アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
ピーマン (施設)	① うどんこ病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗)
	② ミナミキイロアザミウマ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	③ ヒラズハナアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	④ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	⑤ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	⑥ ハダニ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
トマト (施設)	① 黄化葉巻病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④ ハモグリバエ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	台湾ツチイナゴ	年1回の発生で3~5月に産卵し、4~6月にふ化する。1~3歳の若齢幼虫はほ場周辺の雑草を摂食し、4歳以降からサトウキビの葉を食害する。卵期に干ばつが続くと多発生しやすい傾向があり今季は少雨傾向が継続しているので警戒が必要である。防除は若齢幼虫の餌となるほ場内や周縁部の雑草を除草する。又、この時期の幼虫は移動能力が低いいため薬剤防除も効果的である。
	黒穂病	発生は4月頃から見られ、5~7月にかけて多くなる。防除は感染予防に重点をおいて行う。多発生ほ場は株出し栽培を控え更新する。新植栽培は発生ほ場や隣接ほ場からの採苗は控え種苗消毒を行ってから植え付ける。株出し栽培は胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。
かんきつ	黒点病	樹上の葉・枝などの病斑、枯枝が伝染源になるため、発病した葉・枝、枯枝を徹底して除去する。感染時期である新芽期以降から、薬剤による予防散布を行う。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設で台湾キドクガの発生が見られた。新葉を食害するので、施設内を見回り不要な新梢を除去するとともに早期発見・防除に努める。
施設マンゴー	クロテンコナカイガラムシ	一部施設でクロテンコナカイガラムシの発生がみられた。カイガラムシ類は一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

令和8年度 宮古群島 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年3月26日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○4月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
かぼちゃ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② 斑点・褐斑細菌病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ アブラムシ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
ニガウリ（施設）	① うどんこ病	並	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）
	② 斑点病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
（施設・ とうが ん 立体 栽培）	① うどんこ病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ タバココナジラミ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。
※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さと う き び	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で発生が確認された。多発するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の多発の原因になるため、葉裏を良く確認して初期防除を徹底する。
	カンシャコバナネガカメムシ（ガイダー）	複数の株出しほ場で発生が確認された。本種は4月頃から10月頃までに3世代を繰り返す。葉鞘部に幼虫の集団が見られる場合は薬剤を散布する。また、休耕地や収穫後の管理されていないほ場は発生源となるため、早急に耕起・砕土する。
	タイワンツチイナゴ	年1回の発生で3～5月に産卵し、4～6月にふ化する。1～3齢の若齢幼虫はほ場周辺の雑草を摂食し、4齢以降からサトウキビの葉を食害する。移動能力の低い若齢幼虫期の薬剤散布を徹底する。又、ほ場周辺の雑草防除を徹底する事も効果的である。
	黒穂病	胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。発病の多いほ場は早急に更新する。
マン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類、カタカイガラムシ類の発生がみられた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。また、ハブラシ等で成幼虫こすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

令和8年度 八重山群島 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年3月26日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○4月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
（1 水 期 稲 ）	① スクミリンゴガイ	やや多	→	並	平年の発生量の推移（→）
さ と う き び	① メイチュウ類（カン シャシクイハマキ・ イネヨトウ）（株出 し）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マ ン ゴ ー	① ハダニ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
ニ ガ ウ リ （ 施 設 ）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② 斑点病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ ミナミキイロアザミウ マ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	⑤ アブラムシ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予察の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	多くのほ場で発生が確認された。本種は大発生するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の大発生の原因になるため、葉裏を確認して初期防除を徹底する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
かぼちゃ	モザイク病	一部ほ場で発生が見られた。病原であるズッキーニ黄斑モザイクウイルス等のウイルスはアブラムシ類によって媒介されるため、発生源となる雑草の除去、有翅虫の飛来を防ぐ防風垣の設置、薬剤散布等によりアブラムシ類の防除を行う。またモザイク病は汁液伝染するため、管理作業に使用するハサミ等の消毒、洗浄を行う。発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。